3.河川整備の方向性

2 章では河川特性，上位計画・関連計画，地域活動，アンケート調査から現状の把握を行いました。本章では 2 章を踏まえて，河川整備の方向性を示します。

◆洪水の不安からの解消

三川合流部周辺は幾度となく洪水に見まわれてきており，特に昭和 47 年 7 月水害では 10,000 棟以上が浸水するなど大規模な被害を受けました。治水事業が進められてきた現在でも市民は洪水のない安心な川を求めており，引き続き洪水の不安を解消していく必要があります。

昭和 47 年 7 月水害の様子

◆生態系の再生，育成

三次市環境基本計画には生態系の保全や水質の浄化に向けた取組みの必要性が明確にされています。また，市民からもきれいな水質を取り戻したいという声が挙げられています。これからのかわづくりは生態系に配慮し，再生，育成していく必要があります。

環境学習の様子

◆川と人との距離の縮減

治水事業を進めた一方で川と人との距離が遠くなってしまったことも事実です。三次市健康増進計画やまちづくりビジョンにもあるように，ウォーキングなどによる河川空間の利用や水辺に近づくことのできるアプローチなど川と人の距離の縮減を図る必要があります。

河川沿いでのマラソン大会の様子

◆河川の資源・魅力の向上

観光関連計画の中では資源そのものの魅力の向上や，快適性の向上が謳われています。市民からも「鵜飼」，「花火大会」，「尾関山」などは地域の自慢として挙げられています。これらを三次の観光資源として魅力を向上させていく必要があります。

花火大会の様子

◆市民の川への意識の醸成

三川合流部周辺の市民は「2.3 地域活動」にあるように，これまで継続的に維持管理に取組んできています。
また，まちづくりビジョンなどでも河川関連の項目を取り上げており関係が深いことを示しています。今後も市民の川に対する意識を醸成していく必要があります。

市民による清掃活動の様子